

ねじりはちまき

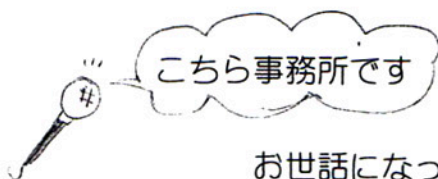
11月 霜月（しもつき） 立冬 小雪の月になりました。
11月3日文化の日、8日立冬です。15日七五三、23日勤労感謝の日
と小雪がいっしょです。

今月8日を境にして、いよいよ冬の季節に入ります。
本格的な冬を迎え霜が降る頃ということで、霜月と呼ばれているのだそうで
す。また、豊作を祝って神様に神楽を奉納したことから、神楽月ともいわれ
ています。

その年によって相違はありますが、初旬にはよいお天気に恵まれ、中頃ま
で紅葉の見頃で、月末が近付くにつれて落葉が見られ、そして冬将軍が近付
いて来るような感じ、になりますね。
高い山には初冠雪が見られるようになります。
今年は紅葉が早いので、冬も早くそしてより厳しい冬になるのではないか…
と思います。

冬を迎えるための体調を、十分に整えておきたいものです。

幸田 常一



こちら事務所です

お世話になっております。

本宮市の現場の増築工事はお陰様で完了いたしました。
また本宮市の住宅改修工事は、もう少しで完成いたします。
新築工事の現場も工事開始させていただいております。

今回は、日本の古代に関わることで、山内丸山と出雲を取り上げたい。山内丸山は青森県にあり、出雲は島根県であり、いずれも日本の中心部からは外れた辺境に地にある。こういうところに何故文明の一大拠点が形成され、栄えたのか。面白いではないか。最も、邪馬台国にしても畿内説と九州説とがある。話はどんどん膨らんでいく。古代に遡れば遡るほど史実の確定は難しく、想像力をたくましくできる。それが醍醐味とうべきだろう。まして、神話時代というか、神話にどんな史実が反映されているものかなんて考えたら、スリルに満ちて楽しいものになるのは請け合いであろう。断っておくが、小生にはそんな洞察力はない。ただ、同じことでも楽しくやりたいものと思っている方ではある。

さて、山内丸山は縄文遺跡である。遡ること約5,500年～4,000年前。縄文時代前期の中頃から中期末葉にかけての大規模な竪穴住居(大型のものも含む)集落跡である。現在も発掘調査中で、その遺跡範囲は約40ヘクタールにも及ぶ。日本最大級である。遺跡の存在は江戸期から知られていたそうだが、今回の発掘のきっかけはこの地に県営野球場を建設しようと調査を開始したら、大規模遺跡の発見につながったということだ。大規模集落というからには、どのくらいの人が住んでいたのか。高床式倉庫なども含め建物跡は約780棟見つかっているが、人口は数百人規模、500人程度という学者もいるが、異論もある。しかも狩猟採集の時代なら移動して暮らすのが常態と思いきや、なんとこの遺跡は当時「定住生活」していたことを物語っている。住居を構えて狩猟採集の生活をしていたのか。実は耕種まではいかないが、簡単な植物は栽培されていたらしい。エゴマ、ヒョウタン、ゴボウ、マメなどが栽培されていたことが確認されている。食物を蓄える貯蔵穴も発見されている。それと、栗の木で作った大型掘立柱建物(祭祀用か)があったとのこと。しかも、栗の木は栽培されていたというのだ。食用の実を採ったり、建築材用にと栽培されたものなのか。植林ということで思い起こすのは、日本書紀の一説に出てくる神話である。スサオノミコトが朝鮮から苗木を持ってきて子供たちと日本で植林をしたのが、日本における植林の始まりというのだ。なぜ朝鮮からなのかはわからない。でも植林の記述があるのだ。当時でも植林の必要性があったのではないか。興味のそそられる話ではある。それと山内丸山遺跡では大人と子どもの墓が発見されているのだ。人の死というものをどう扱うかきちんと考えられていたことを窺わせる。ある学者に言わせると、日本人には「あの世」という観念が古くからあったという。さらに遺跡から出土したものに、土偶や石器・木器はもちろんのこと、広域的に交流・交易していたことを窺わせるヒスイ、黒曜石、琥珀がある。ヒスイは新潟県糸魚川の周辺、黒曜石は北海道の十勝や白滝周辺、琥珀は岩手県北部の久慈周辺の産出なのである。原石で運んできて加工したのか、製品を運んできたのか、当時既にかんがりの広域的に交流・交易がなされていたようだ。海を渡って行き来していたとすれば、航海術はどうだったのか。当時の舟は丸木舟だが、どうも「風や海流を上手に使う術を既に身に着けていた」ようだ。それにしても我々現代人の認識を改めなければならないと思う。山内丸山遺跡は縄文文化のイメージを大きく変えてくれたのだ。我々が思っていた以上に縄文文化は進んでいたのだ。これからも続く発掘調査の成果が楽しみである。例えば、稲作は弥生時代に始まったというがもっと古くはなかったのか(時代区分に関わることだが)。縄文時代には石器はあったが、武器としての石器は発見されておらず、食糧を争奪する争いは生じなかったといわれるが、本当にそうだったのか(平和であったほうがよいが)。いろいろと興味は尽きない。

余談であるが、東北の歴史といえ、奥州藤原三代文化が挙げられる。世界遺産にも登録されたが、それだけの文化が奥州(陸奥)という地に栄えた(当時の中央に影響も与えた)ということに注目しておく必要がある。文化的には辺境というのではないのかも知れない。

次に出雲の国の話に移ろう。出雲といえば「国譲りの神話」は避けて通れない。古事記によれば、出雲大社のご祭神である大国主命は、天照大御神の子孫に国譲りをし、自らは天上界の神ごとを任されたというのだ。そして出雲大社には48m（16階のビル相当）の巨大神殿が造られたという。それは単なる言い伝えではなく、3本の丸太を組み合わせた直径3mの柱（9本）の遺跡（大社の境内）が発見されてその存在が裏付けられている。また、10月は陰暦で「神無月（かんなつき）」いうが、出雲では「神有月（かみありつき）」という。この月は全国の神々が出雲に集まってくるという。つまり、出雲は天上界を司る中心地であるというわけだ。このため出雲大社には神々の宿があるのである。この国譲りの神話に関わる大国主命の活躍話は、古事記には10話ほど登場するが、その後の日本書紀には3話しか登場しない。なぜか。時代を遡れば出雲地方はかなりの支配勢力をもつ拠点であったことが神話に反映されているのに対して、日本書紀の時代は大和朝廷が中央政権として君臨する証としての歴史書の編纂なので、その中では過去の一地方の物語として扱われているとみることができようか。しかし、過去の一時期日本海側で「一大勢力圏」を形成していたことは間違いないといえよう。実は古墳を見ると分かることがある。大和地方の「前方後円墳」に対して、出雲から北陸にかけて「四隅突出型墳丘墓」が分布しているのである。そして出雲にはその最大級の墳墓がある。王級のものなのだ。その出雲から「国譲り」を受けるとは「平和裏に」とはいかなかったかも知れない。武力行使を伴ったことも考えられる。実は古事記の国譲り神話では、天照大神の使者が「剣を振りかざす」場面が登場するのである。それを裏付ける遺跡が発見されたのだ。出雲の「青谷上寺遺跡」である。5千ほどの人骨があるが、その中には頭蓋骨や足の骨に矢じりが刺さったまま残っているのがあるというのだ。これは明らかに武力をもった戦いがあった証拠である。このような経過を辿って「国譲り」を得たのであれば、大和側は「大国主命の「崇り」を怖れたであろう。祭って「鎮める」必要を感じたであろう。これに関して、日本書紀では「国譲り」の章で、天照大神の使者は、国譲りを承知してくれれば、天上界を司るにふさわしい最大級の神殿を造営すると大国主命に約束をする。その約束を先に述べたように後に実現するのである。国譲りに当たる大和政権の出雲制覇はどうも2世紀ころ、弥生時代後期の頃のようなようである。この頃になると、出雲では「四隅突出型墳丘墓」が造営されなくなったというのだ。日本書紀のころになると、大国主命は奈良の都を見下ろす三輪山（大神神社の祭神）に魂を鎮める場を与えられ、大和の守護神となる。「崇る」関係は解消し、伊勢神宮（天照大神が祭神）と出雲大社（大国主命が祭神）は共存共栄の関係になっていく。「崇り」といえば、日本では崇りを恐れるというのは結構あるのではないか。歴史をみても、敵対し、滅ぼした敵方を寺で吊ったり、御霊として神社に祭る（菅原道真の例）という話はよく聞かれるものである。敵とはいえ、亡き者にしてしまうのは後味の悪いものだろうし、「崇り＝怨霊」を怖れる気持ちはある時代までは相当強かったのであろう。余談であるが、それにしても、古事記における大国主命の破格の扱いは不可解というか、どうも分かりにくい。先にも述べたが、大国主命に関して10話取り上げている。弱いものにやさしく（因幡の白兔伝説）、女性にもてて（正妻だけで6人）、多くの子供に恵まれ（180人もいた）、さらに遭遇する試練の中で何回も死にかかっては生き延びて（2回死んで蘇ってもいる）いるのだ。人格的にも信頼できるイメージ、また英雄的イメージ、艶福家のイメージである（それで縁結びの神となった）。さらに大黒天と習合して大黒様ともなっている。いいことづくめである。「国譲り」をさせた相手を何故ここまで描く必要があったのだろうか。話としては面白いのであるが、その意図がよくわからない。ただ言えることは、それだけ出雲の存在が大きかった（最後まで大和に服しなかったのか）ということかもしれない。今回は推測をこの辺に留めて終わりとしたい。

「ガッサン」

度々山のことについて書き恐縮ですが、仲間と共に真冬を思わせる寒さの中、月山神社にお参りをして参りましたので、その時の様子をお伝えいたします。

先月10月4日計画通り5時、マイクロバスに15名の参加者を乗せてk市を出発しました。いつものことですが、今回の参加者全員が幸せいっばいの顔。バスは郡山ICから東北道を北上、山形道に入り西進して月山ICを降り、国道等を走り抜け予定より少々早い7時45分に姥沢駐車場に到着。

広い駐車場には既に多くの車が駐車しており、月山が人気の高い山であることに納得。月山ペアリフト下駅からリフトに乗り上駅へ。紅葉が始まったブナや楓が美しい。約15分で上駅に到着。到着と同時に何時もの通りw氏を先頭にし、私が後抑えの態勢で、山頂の月山神社を目指して登山開始。

牛首・姥ガ岳分岐点辺りから、夏山スキー場辺りの美しい草紅葉が、視界の中に入る。その美しさは私の力では表現しがたい。もしこの世に天国があるとすれば、この美しい草紅葉の眺めではと思う程。

間もなく姥ガ岳(1670m)山頂に到着。

山頂は厚い雲の中ではあるが、雲の切れ間から遠く東に月山湖が、南西方向に黄金色に光る水田が見える(米沢方面か?)。姥ガ岳から雲の中の稜線を辿り牛首へ到着。ここで足に自信のない会員(9名)が下山することになる。

山頂を目指す6名は、雲の中を足下に気を配りながら月山山頂を目指す。

高度を上げるにつれて寒さも加わり、真冬の寒さとなる。登山道脇の草紅葉が凍結し、まるで雪の中を歩いている感じ。山頂近くに建立されている松尾芭蕉の句碑(雲の峰いくつ崩れて月の山)と、刻み込まれた文字は読み取ることが出来ないが、句碑は確認することができた。予定通り、11時30分月山山頂(1984m)に到着。標高差で姥ガ岳と200m余りの差なのに、月山の山頂付近では岩石には氷が張り付き、まるで真冬の寒さである。山頂に鎮座する月山神社は冬に備えてか、戸閉されていたが、お社に向かい無事山頂に立てたことに感謝して参拝をする。

山頂の岩陰で寒さに震えながら昼食。天空の雲の切れ目から陽光が射して、眼下に仏小池付近の草紅葉、遠く黄金色の庄内平野を、更に青白く光る日本海を眺めることが出来、ラッキーな気分。下山は、牛首から往路で堪能した草紅葉の中を辿る。14時30分姥沢駐車場で先に下山した仲間と合流、月山道の駅でショッピング、東北道国見SAで休憩、18時40分全員元気にk市に戻りました。

今回の登山も、この世のものとも思えぬ草紅葉の絶景を眺めることが出来、

10月初旬というのに真冬の寒さを体験して、元気に帰宅することが出来ました。これも、会長様をはじめ山行担当者、会員の方々のお蔭と衷心から感謝すると共に、健康であることの有難さをしみじみと感じた次第です。

k・s記

.....

今月の旬♥食材

「青梗菜(チンゲン菜)」

秋も深まって来ました。
さつまいもやかぼちゃの甘味が増す時期です。
冬に向けて葉物野菜が収穫の時期を迎えます。炒めたり、鍋に入れたり、葉物野菜がこれから活躍しますね。

チンゲン菜は年間通して出回っているので、あまり旬を感じませんが、春と秋が最も多く出回る時期です。
チンゲン菜は、気温が下がるぎりぎりの晩秋あたりが最も味がよくなるという意味では、一番の旬かも知れません。

緑黄色野菜なので、ビタミンCやビタミンA(カロチン)が豊富です。
風邪予防に効果的です。ミネラル分も多く、骨や歯を丈夫にするカルシウムや、塩分の排出を促すカリウムがしっかり取れ、骨粗しょう症や高血圧の予防に力を発揮してくれます。

.....

おでかけ下さ~い

今年最後を飾る大商談会！のお知らせ(*^_^*)

「タカラフェア」開催！

11/27(金) 午前9時00分~午後4時30分

11/28(土) 午前10時00分~午後4時30分

場所→タカラストانダード 郡山ショールームにて

郡山市名郷田1丁目30

電話→024-922-7617

11月10日は「トイレの日」

11(いい)、10(トイレ)の語呂合わせで、トイレの日なのだそうです。

日本初の和風水洗大便器と洋風小便器が製造されたのが、1904年のことで、1914年には国産初の陶器製腰掛式水洗便器が完成しました。

現在では、洗浄機能付きのものから、節水機能付きのもの、タンクがないもの、自動で便器のフタが開くもの、節電機能付きのものなど、様々な商品があります。

トイレは家族みんなが毎日使う場所です。

ただ用を済ますだけの場所ではなく、気持ちの落ち着くもうひとつの小さな部屋、になっているように思います。

トイレを真剣に考えてくれている人がいる。

だからこそ、毎日快適に過ごせるのだと思います。

.....

<会社近況>

11月に入りました。寒くなりましたね。山々も少しづつ染まってこの時期とてもきれいですね。

事務所の庭のもみじはまだ小さいのですが、今とてもきれいですよ。

鮮やかなオレンジ色です。この木が大きくなったら、まあ見事なんだろうなあと思いつながり眺めています。

事務所の外周りも数か月前に除染作業をしたので、駐車場がきれいになりました。前より広くなったように感じます。

現場は、本宮市の住宅改修工事、住宅新築工事、他に修理工事などお世話になっております。

...お知らせ...

11/23(月) 「勤労感謝の日」

ご迷惑をおかけいたしますが、お休みさせていただきます。

平成27年11月5日 発行

有限会社 幸田建設

<発行責任者> 幸田久美

〒969-1204

本宮市糠沢字八幡1-1

電話、0243-44-3816

<後記>

寒くなりましたね。私の周りには風邪ひきさんがたくさんいるので、こまめに手洗い、うがいをしています。温かい飲み物で体を温めることも大切かなと思います。

(事務員ト)